

どなたでも自由にお取り下さい。



2017年夏・49号

信条・世に媚びず・粋にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行 〒583-0018
大阪府藤井寺市西古室 2-8-13
TEL・FAX 072-954-3312 吉田 進
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://www.kawaraban.ne.jp/>
E-mail : info@kawaraban.ne.jp



奈良・東大寺大仏殿内の巨大支柱の下部に、大仏さんの鼻の穴と同じ大きさの穴がある。俗に「鼻くぐり」と呼ばれる。無事穴を抜けて「ヤッター」とポーズする女子高生。これって「鼻の穴を抜ければピースであった」、かな？

CONTENTS

山本周五郎（上）

- 一曲軒と呼ばれた男の一途な視線…………… 2
- 表現したい人集まれ「ばとこいあ神戸」…………… 3
- オーストラリア女子学生留学日記①
- 訛りの強い英語のルーツ…………… 4
- 核の時代70年…………… 5
- 共謀罪 一狙いはあなた—
- 相談だけで誰でも逮捕？…………… 6
- 若者が立ち上がった島本町長選挙
- 維新の強引な「合併」構想をSTOP
- 山田氏、維新、自・公相乗り候補に圧勝…………… 7
- 森友学園事件余話
- 官製デマはこうして作られた

- 辻元議員へのデマが示すもの…………… 8/9
- 北京第7回国際映画祭を取材してきました …… 10/11
- 介護保険が危ない……………11
- 本の紹介 日本の財政破綻は間近？……………12
- 歴史人物私談④⑩
- 日本人が好きな宗教者 弘法大師 空海 ……13
- 岩名雅記のCmジャーニー②⑤
- 「わたしたちの踊りについて」……………14
- まだ大丈夫……………15
- 人はみなこの世の旅人……………15
- 恭子の日記⑩
- 大きな家族……………16



周五郎テーマ・コレクション



周五郎探偵小説全集 (子供向け)

山本周五郎(上)

「曲軒と呼ばれた男の

一途な視線」

鎌倉市在住 市川隼

山本周五郎が63歳で亡くなってから、今年で没後50周年を迎えた。

周五郎は1903年6月22日山梨県北都留郡初狩村に生まれ、1967年2月14日横浜市内間門で亡くなった。4歳の時に山梨を離れ、横浜の小学校を卒業し、東京木挽町(現銀座)で青春時代を過ごし、関東大震災後関西に出た時は20歳だった。5か月後に東京に戻り、千葉県浦安で生活し、27歳の時には鎌倉の腰越で新婚生活を迎えた。翌年には、太田区の馬込に移り

住み敗戦を迎え、戦後は横浜の本牧に越して、近くの間門の旅館を仕事場として著作活動に勤しんだ。明治36年生まれの周五郎は、三十六と命名されたが、直木三十五という作家がいるので、紛らわしくなるので、筆名に本名(清水三十六)を使わないとして、彼の第二の恩人となった木挽町「きねや質店」の店主山本周五郎に敬意を表し、店主名を筆名とした。

一つの言葉が、人生に重大な影響を与え、その人間の人生を縛る事があるが、周五郎

は、小学校4年生の時、第一の恩人となった担任の水野実(「君は小説家に成れ」と言われた一言を大切に)、質屋での丁稚奉公を勤めながら、歯を食いしばり、小説家になる努力を続けた。43歳の時に、周五郎個人雑誌「椿」に前篇を発表し、46歳の時に完成させた『柳橋物語』では、一言を信じた事で不幸の淵に突き落とされながら、悲しくて切ない真実の愛に目覚める「おせん」を描いた。



周五郎の仕事場旧間門園 (横浜)

周五郎にとっては、一つの言葉を信じるという事は人を信じる事を意味し、信じた人に応えられる、或は、信じた人に裏切られる人間模様を、作品に描き続けた。それは恰も、周五郎が辿った、人生軌跡そのものだった。1961

年の中央大学での講演で、「文学の場合は、慶長5年の

何月何日に、大阪城でどういう事があったかという事ではなく、道修町の商家の丁稚が、どういう悲しい思いをし、悲しい思いの中から何をしようとしたかを探求するの

周五郎の小説世界

新潮文庫から、彼の作品が61冊出版され、28の中・長編と354の短編の合計382編が編纂され、文芸春秋に取り上げられた23歳の第一作『須磨寺附近』も、40年後に絶筆となった、朝日新聞に連載された『おごそかな渴き』も収録されている。作品中、340作品が時代小説で、42作品が現代小説だが、第一作と最後の作品が現代小説なのが、周五郎らしく面白い。周五郎は、生活の為に、少年少女雑誌にも多くの作品を発表したが、子供向けの作品にも、人と人との関わりの大切さを描き続け、その習練の積み重ねが、後の多くの作品に繋がった。

今年で没後20年になる藤沢周平が小説家になりたての

頃、編集者から、「鷗外の毒と周五郎の毒」という言葉を教えられたとの事だ。歴史小説、時代小説に筆を染めるなら、この2つの毒から如何に身を守るかという、若い作家への戒めだったようだが、2人の作家の影響力の強さを示しており、鷗外と並び称されて周五郎も苦笑しているに違いない。周五郎が馬込時代、些か捻くれた人間付き合いをしていた事から、尾崎士郎に「曲軒」と渾名され、直木賞まで辞退したが、「他人より一寸五分曲がっているので曲軒と呼ばれているが、一寸五分異なる事を他の人が書かないように書きたい」との言葉を残している。縄田一男が責任編集で、「風雪」「無償」「歲月」「夫婦」「痛快」「武家」「恋慕」「抵抗」「下町」「晩年」と巧みに編集された、「山本周五郎 テーマ・コレクション」集が新潮社から1994年に刊行され、真摯に生きる人々が描き込まれた69編の珠玉の短編が収められているが、他の作家と「一寸五分」異なる周五郎の一途な視線が、全作品に貫かれている。

表現したい人 集まれ 自由空間「ばとこいあ神戸」

さえぐさ のんこ
三枝

阪急六甲の近く、神戸学生青年センターの一室。ドアの向こうにあったのは、それぞれが自らの思いを歌や詩などに託し表現する場だった。2ヶ月に1度の「ばとこいあ神戸」の例会。20人近くの人々は、ベビープーマー世代が多い。ひょうたんの笛による演奏、ピアノ、そしてギターの弾き語りなど音楽分野が多いが、他にも詩の朗読、民謡の研究発表など多種多様な発信が交錯した。

「ばとこいあ神戸」が誕生したのは、1975年10月だとか。「震災時に資料を全て失ってしまったから、記憶があやふやなんです」、事務局を務める千松幸夫さんが残念がる。今年10月には記念すべき100回目の会を迎えるそうだ。

団塊世代が青春時代を迎えた60年代後半は、各ジャンルで新たな潮流が生み出された。いわば時代の転換点であり、既成の枠を破るサブカルチャーが若者の心を捉えた。海の向こうからポップ・デイト



話を聞かせて下さった千松さん(右)と矢谷さん



思いを歌にして

に関係なく、自分の思いを自分流のやり方で歌っていいのだという位置から、プロテストソングを生み出していった。一昨年1月に急逝した「ばとこいあ神戸」の生みの親、小林隆二郎さんはこの「関西フォーク」草創期のメンバー。60年代後半、ベ平連活動に参加して梅田の地下で歌い、新宿・西口広場を関西ベ平連の仲間と解放、フォー



若い日の小林さん

ンやジョン・バエズの反戦歌、ピート・シーガー、ウツディ・ガスリーの詩などが届き、政治的にも安保改定を控えての安保闘争、アメリカが北爆を開始しベトナム反戦運動がうねりを見せていた。

高石ともや、岡林信康、フォーククルセイターズ、高田渡、加川良などによる関西フォークは、歌の上手下手



コーラスで演奏

色の強いメッセージソングのコンサートを開いた。当時は時代の空気もおおらかで、彼らのアジトはまさに「若者宿」ともいえるべき活動の拠点だったようである。千松さんは「人のいうことを全然聞かへんのですわ、隆二郎は」と嘆きつつ小林さんを懐かし

クゲリラとして歌っていた。人の出会いは面白い。千松さんは1974年、「地下鉄西梅田の駅に、長髪でひげもじゃの駅員がいるらしい。見に行こう」と友人に誘われ、小林さんと出会った。以来、小林さんと行動を共にし、フットワークも軽やかに、思いが思いと共鳴し、志ある人々と出会った。やがて沖繩

石垣の海を守る闘い、韓国の詩人、金芝河の救援や台湾の人々との交流にも発展していく。仲間の拠点として共同で部屋を借り、あちこちで政治色の強いメッセージソングのコンサートを開いた。当時は時代の空気もおおらかで、彼らのアジトはまさに「若者宿」ともいえるべき活動の拠点だったようである。千松さんは「人のいうことを全然聞かへんのですわ、隆二郎は」と嘆きつつ小林さんを懐かし

む。その強引さに振り回されたが、「一緒にいるとおもしろいことに会える」と回想する矢谷さん。お金はなくても自由を求め、生きる喜びに溢れ、人の何倍もの濃さで駆け抜けた時代は遠くなり、いつのまにか、多くのメンバーが人生の最終コーナーへとさしかかっている。

今、世界は一触即発のいやな空気が漂う。暗雲の時代を私たちは生きている。共謀罪が成立すれば人と人の関係はさらに息苦しくなり、言いたいことも言えなくなるだろう。そうした状況に風穴をあけたいものだ。危ないことを危ないと言ひ、新鮮な空気を思いっきり吸い込みたい。千松さんは、「あらゆる表現の自由を求めて、判断するのはあなただというのが僕たちのスタンス。どんな表現も拒まず、何でもありでこの場を続けていきたい」ときっぱり。表現の自由を守って行こうという志の場、「ばとこいあ」はそんな思いの磁場であり、自由空間である。(千松幸夫さんの「『ばとこいあ神戸』こもごも」、「ばとこいあ通信」参照)

オーストラリア女子学生留学日記①

訛りの強い
英語のルーツ

千葉県 大山 桜



Brisbaneのシンボル Cityの真ん中の夜景です。

私は学生時代にオーストラリアに1年留学しました。今は社会人になり、日系企業に勤めています。オーストラリアを選んだのは、何度か訪れたことがあり、人も優しく、安全な国だと思ったからです。女性の留学は男性の3.5倍です。それは、女性にとって好ましい職場への就職が難しいことなど男女の就職格差が大きいからだと思います。まだ日本では生涯の仕事に就くには早く就職した方が良くという先入観があることで、男子学生は留学という扉を叩き辛いのではないでしょうか。

無知の無知への気づき

オーストラリアに着いて感じたことは天気のよいことでした。

留学したブリスベンは1年の晴天日が300日を超え、「サンシャインシテイ」と呼ばれています。そして空が広い。雲一つない真っ青な空が180度広がる大地に足を踏み入れれば、自由を手に入れた気になりました。しかし、

そんな喜びもつかの間、まずは自分が留学する大学まで自力で行かなければなりません。とりあえずタクシーに乗り、初めて英語で「○○大学に行きたいのですが：」、まずは第一関門突破。大学に着き、寮に入る手続きをしましたが、ここまでの手続きですでに疲れ果てていました。寮は男女混合8人一室の編成でした。シャワーとキッチンが共同。私の部屋はオーストラリア人4人、スペイン人1人、フランス人1人、日本人2人という編成だった。オーストラリアの英語は訛りがひどく（Good dayをグダイ、Dateをデータと呼んだりする）英語圏の人でも理解するのが難しいといわれています。ハウスメイト（寮生）が私に初めて話した時、あまりにも聞き取れず、ゆっくり話してくれと言うと、笑って言語の歴史を語ってくれました。

18世紀末に大英帝国の植民地として、オーストラリアにイギリス全土から移民がやってきた。赤道付近の孤立した大陸であることもあり、入植者のほとんどが貧しい労働者や流罪の囚人などで占められていた（いわゆるブルーカラーと呼ばれる人々）。言ってみたら「プリズン（刑務所）」だよ。彼らの話すロンドン下町の訛りの強い英語の影響を受けてオーストラリアンイングリッシュが出来たんだよ、と。

ただ、それ故に豊かで独自性のあるオージーイングリッシュなるものが確立されたという（オーストラリア人をオージーと言ったりすること）。こんなことを18歳の女の子が教えてくれました。

日本語の歴史って？

「ところで日本語って複雑で難しいよね。

日本語の歴史を教えてください」と問われ、当時22歳の私はSorry, I don't know. (いめん なさい わからない や)としか言えませんでした。日本にいる時は日本語というツールでしか意思の疎通をしなかったため、日本語の歴史なんて疑問にも思わなかったし、興味もわかなかったから

す。ハウスメイトには、なんで自分の国のことなのに知らないの？と言われ、自分の無知を恥じました。今までの勉強と言えば、テストのために覚えて、テストが終わったら知識として抜ける。主体的に何を学んだのかと言われると、とても答えられません。留学に来て1日目、無知の無知ほど恥ずかしいものはないと思いきや知らされたと同時に、これから先の1年間、同じ地球上にいる誰よりも気づき、主体的に学んでいこう。と心に誓いました。



少しドライブしたところにあるビーチ。空は真っ青でとてもきれいです。

核の時代70年

大阪中央区 三田 栄考



米空母カールビンソンは今どこに？



国民の生活より軍事費優先の北朝鮮

トランプ大統領と金正恩委員長との武力衝突までは至らないだろうと折りつつ、両国の動きを不安な思いで推移を見守る我々だ。これも両国が大量殺戮の核兵器を持っているからであって、通常兵器だけなら「勝手に2人でやって」とすませられるかもしれない。しかし、両国が全面戦争すれば原爆が韓国に、もし

かしたら日本にいや米本土に落とされるかも。核ミサイルが飛んで来たらもう逃げようがない。閃光を受けて死ぬだけだ。広島・長崎以来、怖い核の時代を生きているのを改めて感じさせられている。**トランプと金正恩は最も危険な核のボタンの押し手だ** 独裁者に洗脳され操り人形の如き軍事パレードを行進す

る北朝鮮の兵士。大統領選挙に熱中する韓国の人々。核の恐怖なんぞこのことと無関係極まりない日本人。アメリカ人はどれほど北の脅威を感じているのか？金正恩は自ら率いる国家が大事でそこに生活する国民の人生などは全く考えていないのではないのか？ベトナム戦争で、イラクでアフガンで「戦死米兵×人(二桁)、現地人死亡〇〇〇人(三桁)」と日本でもメディアが報道するように、米国人やトランプにとってアジア・中近東人の命は紙のように軽いのだろう。北からみると「米軍と一緒に戦う集団自衛権容認の戦争法案、ミサイルが近海に飛来したらパトリオットで撃ち落とす宣言」している日本軍は明確な敵だから、攻撃される可能性が高い。日本は平和主義国であったはずだ。だったら軍事的解決よりも最大限の外交努力を先にするべきなのに、安倍首相の「対話のための対話」と外交努力を否定するようでは意味がない。憲法9条の平和主義が泣くだろう。中国は北にも米国にも自制を呼びかけているし圧力も強化する姿勢だ。

不思議なことに日本の反戦派は、米大使館やホワイトハウスに対しても朝鮮総連に対してもデモも抗議もしない。

武貞拓秀士殖大特任教授は「両国は本気で戦争体制に入っていないから戦争にならないだろうが、相手の腹を読み間違つて偶発戦争が起る可能性は、朝鮮戦争以来の最大の危機でもある。よって北朝鮮が六カ国会議に応じないのは明らかだから、米・北の直接交渉をすべきであり、日本政府は拉致問題も含めて北との話し合いを始める」ように冷静に主張されている。

クリントン大統領が1994年に北朝鮮を軍事攻撃しようとした。金泳三韓国大統領は何度も何度も電話でクリントンを説得したが、日本政府は蚊帳の外だった。議員外交(日朝議員連盟等)も一つの手段だと言われるが、野党はこの際、(好戦的な)安倍外交との違いを發揮すべきではないか？

核抑止論では人類の危機は永遠に続く。核の全廃を

昨年10月、核兵器禁止条約に「核保有国と非保有国の断絶を招く」との理由で日本政

府は反対票を投じた。これに対し俳優の渡辺謙氏も厳しく批判していたが、日本政府は唯一の被爆国としてこれまでも矛盾した行動を取ってきた。それは米国の核の傘の下にあるという安全保障に、核抑止論に支えられてきたことにもよる。G7ともなれば現在、世界では核と無縁な存在は困難なのだろう。いや、核を超越するだけの平和主義に徹することができなかった、と言うよりも日本は自ら選んだ平和主義でなく、敗戦と被爆によって与えられたものだからであろう。

更に占領国アメリカの軍事戦略基地に組み込まれたまま独立した日本が、非軍事・核廃絶を訴えるには確かに無理がある。非核三原則を真に貫徹させる気概のある政治家は日本にはいなかったとも言える。核抑止によって平和を保たれているのも事実だろうが核がある限り、いつかは炸裂し人類が存続できない事態に陥るかもしれない。我々は核廃絶を何よりも優先しなければいけない。一度の過ちも許されない危険な兵器なのだから。

共謀罪―狙いはあなた―

相談だけで誰でも逮捕？

大阪市 荒木 淳子

みなさんは自分のメールや電話が警察に見られたり、盗聴されたりするなんてことを想像したことがありますか。

独裁国家ならいざ知らず、今の日本でそんなこと……。いえいえ、それが現実起こり得ると弁護士会が強い警告を発しているのが、今大問題になっている「テロ等準備罪」



大阪で四野党共闘による共謀罪法案反対の訴え



5.3集会 (扇町公園)

(Ⅱ)「共謀罪」です。テロ防止のためには「テロ等準備罪」が必要で、これがないとオリンピックが開催できないと安倍首相は言います。そして悲しいかな、そう言われると、やはり必要なのかなと多くの人が素直に思ってしまう今の日本。でもちよつと待ってよ。

こんな頼りない金田勝年法相の答弁で共謀法が成立してしまうのか



オリンピック誘致のとき安倍首相はたしか、東京は「世界有数の安全な都市」と言っていましたよね。おかしくないですか？

突然降ってわいたように出てきた「テロ等準備罪」としての「テロ等準備罪」。中身を検討すればこれはもう「共謀罪」そのものです。「共謀罪」とは、これまで3回国会に上程され、危険すぎるということで3回とも廃案になった悪名高き法案です。その法案を再び国会に上程するために、それらしい名前に変えて出されたのが「テロ等準備罪」です。ですから、そもそもこの法案はオリンピックに必要なし、テロ対策とも関係ありません。テロ防止のための法律は日本にはすでにいくつもあり、対策が不十分だというならその法律を強化すれ

ばいいのです。

「共謀罪」とは、「実際に犯罪を行わなくても、2人以上が犯罪の計画を相談（共謀）し、その準備をすれば、犯罪とみなされ逮捕される」というものです。でも、そもそも犯罪の相談なんてしないから自分には関係ないよね、とみなさんは思いませんか？ こんなのはどうでしょう。誰かに音楽CDを借りて、それを何枚かコピーして友達に配ってCD代だけもらう相談をした。そのためにCDを買に行つた。これでも共謀罪は成立します。気にくわれない上司がいて、同僚同士の飲み会で「あいつむかつく、殺したるか」と言つて盛り上がった。翌日ATMで出金した。殺人の共謀と逃走資金の準備で共謀罪。日常のちよつとした会話や行為で誰でも逮捕される可能性がある――それが共謀罪です。

相談段階で取り締るためには、警察はそこら中に監視の目を光らせる必要があります。つまり電話やメールが日常的にチェックされることになるのです。あるいは先に自首したら罪に問わないと言っ

て、密告を奨励する。いやはやこれって、とんでもない息苦しい社会ではないですか？ 共謀罪が成立すれば、私たちのコミュニケーションそのものが警察の捜査対象となります。それはとりもなおさず、自由な言論の自粛、言論の弾圧、そして権力による内面の監視に直結するのではないのでしょうか。

すべての人が相談だけで逮捕されるわけではないでしょう。しかし権力側が目障りだと見なした人物を、恣意的かつ「合法的に」逮捕できるのがこの法律の恐ろしいところです。そうなると思う人は、内心おかしいと思つても、政権の意向を忖度してたてつくような言動を日頃から慎むようになるでしょう。小泉元首相の時代にも共謀罪が上程されましたが、小泉元首相は「自分は平成の「治安維持法」を作つた首相と呼ばれたくない」と言い、結局共謀罪は廃案になりました。共謀罪はまさに平成の「治安維持法」です。多くの人に「共謀罪」の危険性を知ってほしいと思います。

(4月20日寄稿)

島本町（高槻市の隣町、その隣はもう京都府。人口3万人の「小さくても魅力ある町」＝山田候補のキャッチコピー）の町長選挙（4月16日投票）が近付いた頃、知り合いに「町長選挙のこと知ってる？」と尋ねると、少し関心を持っている人でも「なんか、維新とか自・公とかから出る人が居るみたいね、ど



選挙戦最終日、水無瀬駅前で練り歩き隊を前に最後のアピールをする山田こうへい候補

若者が立ち上がった島本町長選挙

維新の強引な「合併」構想をSTOP

山田こうへい候補が維新、自・公候補に圧勝

高槻市 三上 弘志

うなってるの？」という返事。「いや、維新と自・公の相乗りで候補者が決まったみたい」と言うと、「エッ、そら、アカン、残念やけど、負けやなあ」と言う反応。

色々な動きがある大阪でも、こういう強大なブロックが形成されるのは今のところはレア・ケース。選挙戦が始まりかけても「奇跡に賭けてみるしかない」という気分が濃厚でした。

話は前後しますが、現町長は評価は色々、党派色の強くない人なのですが引退を表明、後継指名はしない。候補者探しはどの陣営も難航したようですが、先の枠組みができてきたことが伝わり、町長選の見通しは暗いものになっていったようです。

ところが、この候補を最終的に大阪維新の会が担ぎ出す

ことになり、維新の国会議員・府会議員が前面に出て、町長・町議候補擁立の記者会見が行われます。実はこの記者会見が全ての始まりであり、彼らの敗北の最大の原因にもなったのです。彼らは

「島本町の高槻への合併を1期4年でやり切る」と宣言したのです。これで島本町に激震が走りました。それも文字通り「上から目線」で、「多くの会議で検討したが、合併

しかない」と言い切る姿に、「なに、それ!？」と驚きが広がりました。ですから、その後この候補の宣伝物には一切合併の件は触れられなくなりました。YouTube、今も見られるのですが、削除はされませんでした（削除したらすね）。

山田こうへい候補は街頭での訴えでも語りましたが、この記者会見を見て、「エッ! 島本町が無くなる?! そんなことを許せない」と町長選に立つ決意をするのです。そんな訳ですから、準備も整わないままの出発で、どうなることかと不安でした。でも、多くの方の協力を得て、日に日に、支持が拡大して行っただけです。

候補者の資質の

歴然とした差が決め手か

さらに、次のようなことが山田当選に結びつきました。島本生まれ島本育ちの山田君に対して、維新候補は高槻から数カ月前に島本へ移住した人だったこと。彼の学歴（東大卒）や職歴（大阪府職員）をウリにしたようですが、人物的に全く評価されない方だったこと（自己顕示欲が強く、演説もダラダラと）。

対する山田君の真摯な姿勢、誠実さが信頼を勝ち得て行ったこと。他の候補が60歳程度に対して、若さ（32歳）が魅力、子育て世代にも訴えられたことが大きく影響したようです。中心を担う若者の

必死さで、応援する人、陣営が繋がって行ったこと。

具体的には、14人の町議中、2期以上の実績を持つ3人の「市民派町議」、今回は立候補者を2名から1名に減らされたのですが、宣伝物の多い共産党町議、民進党は自主投票でしたが辻元支援者の勝手連、社民、みどり、新社会の近隣市議等の応援が続きました。

結果は、山田君6417票、維新・自公の候補4651票、無所属の元町議3706票、圧勝と言ってもいい快挙です。維新の強引さに嫌気がさした自・公の票は白票（約400票）や無所属元町議に投じられたようです。維新の都構想のプラン（としての合併構想）を挫折させ、自民党と補完勢力維新との野合の芽を摘んだことは素晴らしいことでした。

近隣市では「島本町民の民度は高い!」とも言われているようです。

森友学園事件余話

官製デマはこうして作られた
辻元議員へのデマが示すもの

フリーライター 有江 凛 ありえ りん

前半国会の主演となった森友学園問題だが、参議院予算委員会での議論が終わりを迎える中、奇妙なことがおきた。辻元清美衆議院議員の「疑惑」問題である。

辻元議員へのデマは当初から発生していた。辻元議員はブログでデマを否定し、「事実確認してから報じてほしい」と呼び掛けている。この時点で、デマが大きく拡散することはなかった。

しかし、籠池夫人から安倍昭恵夫人へあてたメールのなか、辻元議員の名前が出てきたことで状況が変わった(根拠も示されず、また国有地売却とも関係ない文脈だった)。辻元議員と民進党が文書で否定したものの、「疑惑」を拡散するツイートなどは最盛期で一日3万件、多く

のまともサイトも生まれて史上最大級の「大炎上」となった。

重要なのは、このメールが誰が公開したか、ということだ。3月23日の籠池氏の証人喚問でメールの「全文公開」を迫ったのは自民党の西田昌司議員である。翌日の「参議院予算委員会理事会で、辻元議員の名前があったから民進党がメールの公開を拒否」とネット上の世界では信じられる状態になった。しかし

事実上、メールの真偽が確認できないために与党サイドすらも「これは公開できない」と判断したそう。

たのかと記者質問された菅長官は「官邸というか、政府としては(略)客観的なひとつの証拠になるだろうと思って官邸は辻元(デマ)メールの公開を(略)決断した」と答えた。メールの信憑性については「それはご覧になった方が判断するんじゃないでしょうか」と突き放して逃げていく。記者たちは官邸が裏を取らずに公開したことに驚き、メールの扱いそのものを慎重にすることにしようという。この件に先立ち、官邸が夫人付きのスタッフの連絡先などを黒塗りせずに公開し、慌てて回収するなど、情報管理に関する官邸の無軌道ぶりが目に余ったことも大きかった。

5.3 扇町集会所



この直後の土日、辻元議員に対するネット上のバッシングはすさまじかった。「フジテレビ以外の表のメディアが取り上げなかったことも、民進党の報道弾圧のせいだ」というデマが飛び交った(のちに保守系サイトのサーバがダウンしたときは、辻元議員のサイバーアタックだというデマまでも流れた)。

- ① 産経新聞から辻元事務所に質問状のFAXが届いたのが3月27日の13時半、回答の締め切りが17時だったと報じている(これは異例の短さである)。産経新聞が問題にしたのは以下の論点である。
- ② 辻元議員は生コン組合に所属する作業員を送り込んだのか。
- ③ 辻元議員は塚本幼稚園に侵入したのか。
- ④ 森友学園に売却された国有地に隣接する土地(豊中市が購入)

について、国の補助金が85%入っており、交付されたときの国交副大臣が辻元議員だったことから関与があったのか。

辻元事務所が

- ① 3月24日 籠池諄子夫人から安倍昭恵夫人にあてた私的なメールを自民党・西田参議院議員がマスコミに配布。メールの中に、辻元清美議員が「敷地へ侵入」「作業員を送り込んだ」というネット内のデマがそのまま記述されていた。
- ② 同24日、菅官房長官が定例記者会見でメール公開にあたっての官邸の関与を認める。
- ③ 同24日、一部保守系メディアがメールを「全文公開」したことで、ネットの保守サイトを中心に辻元議員への誹謗中傷が始まる。
- ④ 26日、フジテレビで安倍総理の「御用記者」が「辻元問題」としてとりあげる。「辻元議員に送り込まれた」とされる作業員本人が同報道を見てフジテレビに抗議、謝罪を受けていたことがのちに判明。
- ⑤ 27日、産経新聞が辻元清美事務所へ質問状を送付。28日、辻元議員からの回答をまたずに産経新聞が
- ⑥



2014年3月14日籠池夫妻と内閣総理大臣安倍晋三(公人)夫人。首相は夫人が払い下げに関与していたことを認める議員を辞職すべき

「事実関係について」明日、確認が取れた段階で返答する」と答えていることは、産経新聞自身が明らかにしているが、産経新聞は辻元事務所への回答をまたず、翌日に大きく「3つの『疑惑』」として辻元議員に対するデマを報じた。取材相手が期限も決めて回答にに応じているのに、仁義をやぶってまで一日早く報じた理由は何か。

その答えを示したのが安倍総理自身だ、安倍総理は、産経新聞が記事を出した3月28日の参議院決算委員会で、質問者から聞かれもしないのにこう答弁した。

「辻元議員はメールの中で書かれていたことがですね、書かれていたことが産経新聞に、今日、3つの疑惑と出てましたね。これ一緒にするな

とおっしゃってますが、これをそんなことはなかったと辻元議員はですね、これは、いわば、真つ向から否定しているわけでありました。これも証明しなければいけないということになるわけでありまして」

辻元デマメールと籠池証言を同レベルに扱い昭恵夫人問題を「ごまかそうとした安倍首相

この日の決算委員会が過ぎれば、しばらく総理入りの質疑はない。昭恵夫人の問題から目をそらすためにやった、あまりにチープな「官製デマ」だったことがわかったのだ。

実はこの手法は安倍総理のお家芸なのだ。2000年代のジェンダーフリーバッシングでもそうであるこのチームの座長が安倍幹事長代理だった。しかしフジテレビと産経新聞を除き他メディアが追従することはなかった。それには、官邸に対するメディアの強い反感と、フェイク(うその)ニュースをつくらないという決意があったと思われる。

また、辻元議員が落ち着いた対応を見せたことで、かえって第三者がデマだと証明することとなった。

菅野完氏は、籠池夫人及び長女町浪さんへのインタビューをネットに公開し、辻元議員が侵入したというのはいじめ込みであったことを証言した。

荻上チキ氏はラジオで「作業員」のインタビュウを行い、当事者が辻元議員に面識がなく、しかも作業日は森友問題発覚前の11月であり、作

業員は生コン業界でないこと、フジテレビが謝罪していたことも明らかになった。

辻元議員の心境については、保守系メディアが伝えている。

——記者会見を開くとか、法的措置とか徹底抗戦しようという考えはないのですか？

「籠池夫人が、公開を前提としないメールで私の名前を出したことで自分は名誉棄損だとは思っていません。こんなことで民間人が国会議員に記



的外れな不誠実な答弁を繰り返す安倍首相

森友学園問題のネットニュースから5月14日ピックアップ
安倍晋三首相が辻元清美議員を攻撃し、墓穴掘る？
 2017年04月29日 16時25分
 森友学園問題で安倍晋三首相が逆襲に出て民進党の辻元清美氏を攻撃、玉砕の様相という昭恵氏と籠池夫人のメールに辻元氏の名前が登場し騒ぎになったが、根拠がない事が判明
 籠池氏発言を偽証と言ひ、籠池夫人メールは信憑性があるというのは論理破綻だと指摘

者会見を開かれて嘸みつかれたら、そんな社会は気持ち悪いと思う。それより、中身を知らながらメールの公開を決めた人のほうが気になる。私は籠池夫人の内心の自由も守りたいから、あまり騒ぎたくないんだけどな」(文春オンライン<http://bunshun.jp/articles/1908>)

権力者はデマを真実にする力を持っているから、共謀罪で一般市民まで脅かそうとする安倍政権には一刻も早く退場してもらわないといけない。

- ⑦ 「辻元氏 3つの疑惑」と報じる。
同28日、参議院決算委員会が安倍総理が民進党議員への質問に対する答弁で、産経新聞の「3つの疑惑」記事に言及。「(辻元議員は)証明しなければいけない」と昭恵メールをそらす発言。
 - ⑧ 29日、維新の足立衆議院議員が国交委員会で辻元議員の名を出して質疑。民進党玉木議員も同委員会で、問題とされている補助金が麻生政権時代のものではあったことを確認。
 - ⑨ 同29日、ライターの菅野保氏が籠池夫人のインタビュー動画を公開。籠池夫人自ら、辻元議員の「侵入」を確認していないと証言。
 - ⑩ 同29日、荻上チキ氏、TBSラジオで「作業員男性」のインタビュウ音声を公開。作業員男性が「辻元氏と面識ない」「埋め戻し作業をしたのは森友問題発覚前」と証言。
- (時系列整理||編集部)

北京第7回国際映画祭を

取材してきました

東京都野市 増山 麗奈

私は映画監督をしているのですが、今年は国際映画祭とご縁が深まっている。2月1日〜3日に、東京の憲政記念会館で、「第1回アジア国際映画祭」で私の監督作品「サダコの鶴」地球をつなぐ」の招待上映を行ったことを皮切りに、「ユーラシア大陸120カ国の映画作品を日本で上映する国際映画祭をやるうー」と思いついてしまったのである。来年の春ごろ、東京の国際フォーラムで開催する予定である。

芸大の元教授坂口寛敏さんや、2017年アカデミー賞候補のマーティン・スコセッシ監督の映画「沈黙」にも出演している女優の大島葉子さんが発起人に名前を連ねていただき、先日4月10日に、第1回の会議を行った。イスラエルに渡航中の俳優のジュン・アマントさんとスカイプ

でつなげた会議で「ヨーロッパ、アジア、中東と分けて考えがちだが、我々の先祖の文明の発祥は皆ヒマラヤの雪解け水から始まっている」と発言があり、政治的緊張感で分断されがちな現代にこそ、互いの文化を知りあう交流が必要だーと、士気が高まった。

私は2004年のイラク戦争の時に、イラクを訪れた経験がある。その時日本の商業画廊オーナーに「あんな未開の地にアートなどあるわけがない」と諭された。日本の美術教育では中東のアートを学



横井在中国日本大使と筆者



りゅうじくんファンの中国女子たち

ぶ機会がほとんどない。しかし、実際訪れてみると爆弾が落ちる中でも、イラクの画家たちは誇りを失わず、ハイレベルな製作や美術教育を続けていた。その時、気が付いた。我々は「ここには文化がない」と思われる思考枠からくる差別意識が戦争を許しているのだと。そして、過去、大陸を渡りながら文化を伝えあってきた先祖・人間存在への冒涇的思考だと。歪んだ価値観をすこしずつでもよ戻していきたい。

だから、このユーラシア映画祭の企画は、本当に人生をかけて取り組み成功させた。第1回の準備会を行なったところで「ブルースリーをデビューさせた香港映画界の重鎮染野社長も参加してもらおう」「年間10本以上

の映画に投資する及川次雄プロデューサーも」と輪が広がる。会議の翌日紹介していた及川プロデューサーが企画した「カノン」がなんと北京国際映画祭に招待されるという。主演の佐々木希さんや、雑賀俊朗監督も北京に行くとのこと。「面白そう！」と急遽、北京国際映画祭へと向かうことに。会議の4日目には、飛行機に乗って、燃ゆる北京へ。人生はジェットコースター。ノリで行けるとここまで行ってみよう！

今回が第7回である北京国際映画祭の規模はデカイ！まず会場が30劇場。259作品を1週間かけて上映する。応募500作品以上の中から、審査対象となる正式セレクション作品は15作品。その15作品の中に、及川プロデューサーの「カノン」は選ばれている。正式セレクション作品にはフランスとカナダ合作や、イタリア、中国、ベルギーの合同作品、スペイン、ロシア、スペイン、クロアチア合作、イラン映画など。15作品のうち中国作品は2作品で開催国として決して多くはなく、アメリカ作品はゼロ。

今後ハリウッドを超える世界業界創設を念頭に置いたセレクトだと感じた。ちなみに今回の映画祭韓国映画はゼロ。昨年は7本上映されて、毎年出品していたとのこと。米軍との合同訓練など高まる北朝鮮情勢の影響を考えざるをえない。

中国で日本映画への期待は高く人気は高い

一般上映作259作品の内、「シンゴジラ」「本能寺ホテル」「湯を沸かすほどの熱い愛」など日本映画は26作品。約1割が日本作品なのだ。その中で6作品が「日本映画週間」という日中映画祭実行委員会主催の公式招待作だ。北京国際映画祭や上海国際映画祭で10作品ほどの日本映画を上映すること、在中國日本大使館での関連イベントを行うなど国家的な日中の文化交流企画で、10月に行われる東京国際映画祭での中国映画招待、在日本中国大使館での相互交流が実施される。開幕式には、映画の舞台となった富山や岡山のゆるキャラも着ぐるみで登場。中国での映画上映は、観光客誘致にも繋

がるのだ。今後、日本と中国はお互い撮影時や公開時の税の免除などのパートナーシップ映画協定を結ぶことを検討中だという。

横井裕在中国日本大使

は「中国の映画市場規模は7200億円。(日本は2000億円)意固地にならず、こういった文化交流を通じて、日本映画は中国市場に進出して欲しい」と語った。

印象的だったのは「Please Please Please」堀内博志監督主演の俳優・佐藤流司さんの人気ぶり。佐藤さんの行う日本アニメ「NARUTO-ナルト」を舞台化した2.5次元と言

われる舞台は中国のネット動画でも大人気。「流司大好き♡♡♡♡」と黄色い雄叫びをあげるゴスロリや女子高生制服コスチュームに身を包んだ日本カルチャー好き中国女

子達の熱気はすごかった！文化と愛は、簡単に国境を超えていく。こういった国と戦争なんて、したくないなあ。(筆者は映画監督・画家・市民活動家)

介護保険が危ない

大阪 松原市民 古川 一夫

わが国では、急速な高齢化とともに、寝たきりや認知症の高齢者が増えつつあります。介護が必要となったとき、貴方は誰が面倒を見てくれますか。家族がいない人、家族がいても高齢であったり仕事があつて不可能な場合、介護の問題は老後の大きな不安となります。

介護保険制度では社会全体で介護の必要な人を支える仕組みとして平成12年に創設されました。この保険金は40歳になると負担が義務付けられています。まだ介護の実感の無い人がいるでしょうし、老々介護に悩んでいる人もいるでしょう。老後の年金問題と共にわが国では大きな問題となっております。

介護保険の改悪が進んでいる。軽度者(要支援1)要介護2)へのサービスは縮小され、利用者負担は増える一方だ。特別養護老人ホームへの新規入所条件は「要介護1以上」から「要介護3以上」に厳格化された。つえ・介護ベッドなどの福祉用具の貸与は、利用者負担割合を現行の

原則1割から増やすことを検討中だ。また所得の多い高齢者の介護サービス自己負担を現行の2割から3割に引き上げようとしている。

要支援を切り捨てる「総合事業」

介護保険利用者のうち、要支援1、2の方に向けたホームヘルプサービス(自宅

訪問で受けるサービスとデイサービス施設等に通って受けるサービスは、今年4月、すべての市町村で新方式のサービスに替わった。新方式の介護保険制度改正により決められたもので、「介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)」と呼ばれる。これまでの全国一律の介護サービスから、市町村の裁量で報酬や基準を決定する方式に移行了。

「総合事業」の狙いは介護給付費の伸びを抑制することであり、そのため介護事業所への報酬を下げるのが原則とされる。報道機関の調査によると、すでに総合事業を始め

ている157自治体の報酬は従来と比べ平均して2割減となっている。そのため介護事業所は「これではビジネスが成り立たない」と参入を渋り、継続参入は訪問サービス

で5割、デイサービスで3割と激減している。

「要支援」者には生活援助が必要

「要支援」の人は常に介護は必要でないが、買物・調理・掃除・洗濯など生活援助が必要な人で、そのうち7割は80歳以上で一人暮らしが多い。日常家事をできばきとこなせないの、週1~2回、ホームヘルパーに掃除や栄養バランスのとれた食事作りをしてもらい、体調を維持しているのが実情である。

「参入事業所が減れば必要なサービスが受けられず、早

無資格者が対応できるのか

総合事業では、低報酬サービスを導入のため、ホームヘルパーの資格を持たない人が介護の現場で働くことを想定している。無資格者に対し市町村が行う研修は1~2日間で、ホームヘルパー2級の有資格者の130時間講習と比べ極めて短時間である。

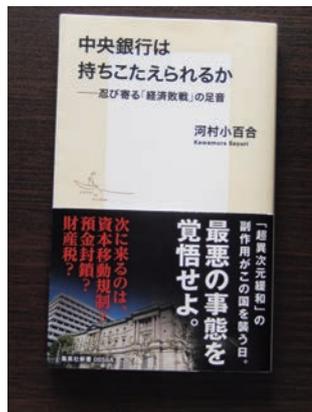
要支援には軽い認知症の方が多いし、中には気難しい方もいる。そのような高齢者とコミュニケーションをはからなければならぬ。足腰が弱っている方も多く、健康状態を確認しなければならぬ。短時間の研修を受けただけの方が、このような介護予防の現場できちんと対応できるかははなはだ疑問である。「社会全体で高齢者を支える」という介護保険制度の理念を忘れて、軽度者を切り捨ててはならない。

【本の紹介】

『中央銀行は』

持ちこたえられるか

―忍び寄る「経済敗戦」の足音―



日本の財政破綻は間近？

奈良県 小野 悠

最近、非常に「コワイ」本を読みました。

日本政府の債務残高が、「量的質的緩和政策」によって今や1200兆円を超えたことによる、日本銀行の破綻の可能性を指摘した『中央銀行は持ちこたえられるか―忍び寄る「経済敗戦」の足音』(集英社新書 2016年11月発行/820円)です。

著者は、日本総合研究所調査部上席主任研究員の河村小

百合氏。日銀時代も含めて、長年、金融畑を歩いてきた人物の話だけに、いわゆる「キワモノ」ではない迫真性があります。皆さんに、ぜひ、読んでいただきたい一冊です。以下、概略(の概略)を紹介します。

禁じ手の

財政ファイナンスを続ける日銀

著者は、現在の日本の金融

政策は、日銀が日本国債の最大の保有者となっている事実上の「財政ファイナンス」状態であることが最大の問題点と述べている。「財政ファイナンス」とは「中央銀行による国債引き受け」のことで、これまでの国内外の歴史的な経験からは、必ず放漫財政と財政破綻や高インフレを招来し、国民に甚大な負担を引き起こすとして、現在ではどの国も、憲法や法律で禁じており、わが国でも財政法第5条で明確に禁じられている。日銀が、事実上の財政ファイナンスを続けられなくなったときこそが、わが国の財政と経済にとっての正念場になる。そして、「この国が将来に向かって抱える恐ろしいリスクは、日々、膨張し続けている。日銀が中央銀行として『持ちこたえる』ことができるのか、この国は大丈夫なのか、本当に心配になる」と述べている。

「財政破綻」で私たちの暮らしは?

巷では、「日本は貯蓄率が高く、国債のほとんどを国内で保有しているから、大丈

夫」という見方があるが、それはあくまでも日本政府自身が健全な財政運営に努めている限りにおいての話。しかし、一国が債務残高の規模を増やし続けたまま永続することはあり得ず、「国債の大部分を国内で消化できていけば大丈夫」では決してないと言

う。日本はかつての第二次大戦の敗戦で財政破綻したが、このときには、空前絶後の大規模課税として、動産、不動産、現預金などを対象に25%90%という高率の財産税を課した。1946年には、預金封鎖及び新円切替えが断行された。このことの国民向けの公表は実施の前日に行われ、わずかに1日で実施に移されるという「荒業」だった。翌日から、世帯主は月300円、それ以外は一人月100円しか預金から新円として引き出せなくなった。「タンス預金」では財産を守れないのだ。このように、最後の痛みは間違いなく国民に及ぶ。

いずれはこの国も、IMFに支援を求め、その管理下に入らざるを得なくなる日が来るかもしれない。そうした際

に、日本の財政運営に開くであろうバケツの穴は極めて大きく、IMFの支援では到底足りなくなるだろう。

しかし、この国の今の「お上」の実態は、国の長期的な先行きなど何も考えずに、平気になってしまっているのではないか。また、メディアもこの危機を指摘せず、「お上頼み」になってしまっている感がある。

呑気な日本国民

太平洋戦争で戦費調達のために過酷な税金を掛けて財政破綻を免れるために極端なインフレ政策を取り一夜にして新円と切り替え命令を出して手持ちの現金、預金の価値を無茶苦茶にして実質国の借金を無くしたりしたのは70年前のこと。近年では突然に財政破綻が現実になり大騒ぎになる映画もあった。主要な誰かが本気で財政破綻を宣言すると一挙に日本の経済が大混乱を起す危険があるのに、世界一の借金大国日本の国民はなんと呑気なものか。財務省は内心ではそれを狙っているそうですよ。

時間を遡行できないならばせめてこの脚で /

岩名雅記の Cm ジャニー-25

「わたしたちの踊りについて」

いわな まさき / 舞踏家、映画監督 (フランス/南ノルマンディ在住)

日頃は私の専門職である「舞踏」についてこの紙面で書くことがないのでこの機会に舞踏について少し触れてみたいと思います。日本で「舞踏」というと殆どの人が知らないか、「武道」と間違えられるのが落ちです。一方、欧米の諸都市ではかなり「舞踏」が知られています。

れるでしょうがそれとは別物です。土方は1959年に当時の現代舞踊協会の舞台で「禁色」という三島由紀夫原作の小品を発表、即刻協会から追放されたそうです。何故なら作品の内容は「男色」であり、クライマックスは吊された二ワトリに男がつかまりぶら下がるといふ激しいものであったからです。以降、舞踏はエロや暴力の代名詞ともなりました。

私はその約10年後に土方と出会うこととなります。当時の私の所属する劇団と土方の「暗黒舞踏派」が東京で合同公演を行なったからです。私の土方への最初の印象は「不思議なヤツ」という程度でしたが次第に彼の言動に魅了されていきました。とはいえ、私は最後まで土方の弟子ではなく個人で活動してきました。私は今年で在仏30年になります。私がヨーロッパの方々と舞踏について学ぶときに土方のような「特異性」を強調したり要請したりするのはなく、「踊りとは何か」「からだとは何か」という本質的／根源的な問いかけをしてきました。以下はそのノートの一部

です。

私たち舞踏家は伝統舞踊や古典舞踊の踊り手とは違って「ある意味で」素人です。「ある意味で」とは決められた芸術的な規範や技術のレベルという枠から眺めてという意味



です。いわゆるプロの踊り手は一日でも稽古を怠ればたちまちその規範やレベルの枠から滑り落ちることになりますから毎日の稽古を欠かせないわけです。曰く「一日稽古を休めば自分にわかり、2日休めば教師にわかり、3日休めば客にわかる」。

無論私たちにも稽古は大切ですが定められた規範や技術的なレベルがあるわけではな

いのでその意味では素人といわけです。では私たちの踊りが簡単にできるかというところ全く逆です。大変難しいわけです。何故難しいかと言うと踊る根柢が技術やその水準にあるのではなく、自分の内部(自己)にあるからです。

この言い方は少し難しいかもしれませんが自己という言葉に置き換えてみます。例えば何処かで習った踊りの手順をやってもそれがたいへん高度なものではなければ自分のものにはならず、いわゆるレベルの高いプロには負けてしまいます。また音楽に合わせて踊ることもできますがそのリズム感が相当に良くなければやはり見せ物にはなりません。今例としてあげた習った踊りの手順とか音楽に合わせて踊るということはそれが技術的に結晶化していない限り借り物である、つまり「具体的ではない」といえます。ではどうすればいいのか? 「具体的」でありながら、技術のレベルを問われないもの(従って競争やコンクールによる勝ち負けや優劣は私たちの踊りにはありません)を自分の中

に見つけてそれを必死にあるいは豊かに踊るといふことです。これが自分を踊る、あるいは自分のからだを踊るといふことです。「自分を踊る」のですから強いていえば舞踏の踊りはいつでも「一等賞」です。

まだじっくりこない方は私たちの踊りの現場では是非それを確かめてみてください。現在はいはあまり日本で活動する機会はありませんが、春夏秋冬わたしの住むフランスノルマンディのアトリエで毎回2週間ずつ世界中からやってくる方々と稽古をしています。

身体映画作家 岩名雅記監督の長編劇映画第4作『シャルロット すさび』が完成しました。

今年各国の映画祭出品に挑戦、日本での公開は年末から春になります。乞うご期待!



まだ大丈夫

東京江東区 森川 澄子

70歳を過ぎ「疲れた」と、頻繁に口にするようになった。最近、スーパーへの買い物程度で足が重くなり、疲労感と息切れを感じた。これが老化なのか、と落ち込んでいる。ふとテレビのサブリメントCMがちらつく。

そんな折、藤沢市に住む妹から「お墓参り、何時にする？」と電話がきた。実家の墓参りは母が亡くなって年中行事になった。彼岸前の土曜、または日曜と決めている。「休日おでかけパス」を使う。最寄り駅までは便利だが、その先はタクシー、貸自転車、徒歩のいずれかだ。何となく足に不安はあったが、妹が「自転車」というので従った。タクシー代は馬鹿にならない。

当日、駅前の観光案内所で自転車を借りた。持ち物も前かごに入れ、風が吹いても脱げない毛糸の帽子をかぶり、手袋は滑らない園芸用を使っ

た。運動の苦手な私が先行、万能的な妹が後ろで私のスピードに合わせた。田園地帯の片側一車線の道路を、大型車の風圧に注意しながらペダルを踏む。柔らかな春の日が全体に気持ち良く、上り坂も軽



快だ。

そうそう、私たち高校へは自転車通学だった。ダンブカーが土埃を舞い上げて走る砂利道の端っこを、制服のジャンパースカートがめくれるのを気にしながら、懸命にペダルを踏んだことを思い出

人はみな

この世の旅人

—命のリレー—

三枝のせい

4月の連休前、母が逝った。93歳、大往生だった。認知症のなせる技で、帰宅願望を絶えず口にしたが、満州育ちの身。帰るべき生家もなく、幻の故郷を想う哀惜の念



死にゆく母が生まれてきた2か月の孫の指を握った

は昼夜の別なく続いた。「帰る」と言つてどこかへ行こうとする母、後ろからそっと見守り、体力を消耗させ諦めてくれるのを待つしかなかった。時には阻む私を振り払い、廊下で「助けて、人殺し」と絶叫し、団地の家々の窓が一斉にあいたことも。途方に暮れる母の行状、母も私も充足して眠りに落ちる夜はなかった。

意地悪く「お母さん、もう十分生きたでしょ」とその死を願ったこともある。今、崩壊する母から解放され、晩年のすさまじさと悪戦苦闘に

比べ、死の何という軽さよという思いが胸にこみあげる。この世に生まれる時は祝福され待ち望まれながら、そして終局は、孤独にさいなまれながらのたつたひとりの道行きだった。

母が降りたかったのは、ゆかりの場所ではなく、自分自身の子ども時代ではなかったろうか。死のわずか3日前に容態が急変してショートステイから帰宅。延命治療はせず自宅で最期を迎えることができた。私が出れることは水を含ませることだけ。おしめを替えた私と娘に「ありがとう」の最後の言葉を残して、善良な魂を失うことなく母はこの世を旅立った。

した。今、その脚力はないがペダルが軽い。往復とも休憩なしで走り切った。

翌日、妹に電話した。

「どっこも痛いところないんだよ。困ったねー」。晩年の母の口癖を真似て笑い合った。合計20キロ余を愉快にサイクリング出来たのだから、まだまだ元気と思いたい。サプリメントの必要なしと自己診断した。

編集後記

北朝鮮威嚇問題、トランプ腕力政治、安倍暴走政権、共謀罪法案、森友学園―昭恵夫人事件、豊洲市場問題と相変わらず不愉快な事件が続きます。本誌も多くはこれらを追及してますが豪州留学、寺子屋、「まだ大丈夫」とさりげない微笑ましい記事でほっとするのも良いでしょう。

本誌も2001年冬号を創刊して次号で50号を迎えます。ご支援して下さる皆さんに深く感謝しています。寄稿、本誌の拡大配布、知人へのメールでの編集部からの送信などを協力いただければ有り難い。次号は7月20日締め切り、ニュース性のない原稿を早めに出して下さい。できれば写真、小見出しなどもお願いします。

恭子の日記 ⑩

大きな家族

私は子供が大好きで学校の先生をし、結婚してから3人の子を産んで、又寺子屋を開いた。息子は私が開いた寺子屋を継いでくれた。息子は時間があると子供たちを呼んでよく勉強を見てくれている。子供たちも息子が大好きで

兄貴のように慕ってくれている。

息子は運動も得意で 元気印子だが「鬼のかく乱」と言う言葉があるように 突然体調を崩し検査入院をしてしまった。1週間後に数学検定があった。ただでさえ子供のために子供のためにと生活をしてきた息子だから、余計に責任を感じ、一刻も早く帰りたいと切に願っていた。お医者様に止められ、寺子屋のことを気にしながら口数も少なくな



寺子屋で勉強する子どもたち

くなくなった。

息子の検査入院は、寺子屋にあつという間に広まった。

いつも居る人が居ないのだから。

私たちは



「明るい未来の予想図」 中田恭子さん作

先生と生徒の関係ではなく、大きな家族と言った中にある。先生が入院したのではありません。自分たちの家族の兄が入院したと言う意識が子供たちの中にあつたよ

うだ。

早速に大学生、高校生から「息子の代わりには寺子屋の子のお世話をするから ゆっくり休んで」と言うメールが入った。大学を出

て今年から就職をしたばかりの卒業生からも「今は仕事始めで辛い近くで研修があるから 研修が終わったら毎日駆けつけます」とのメール。本当にありがたい、本当に私たちは幸せものだ。

寺子屋の子はみんなよく

育ってくれている、と子供たちや子供たちを育てたお母さんたちやご先祖様や天にも感謝をした。寺子屋の子育てでは、結果を急ぐ人にはもどかしい塾かもしれないが、子育ての結果なんて、ずっと先にしか見えないと私達は思っている。今は、本当に



寺子屋の子どもたちと筆者（真ん中）

よくみんなが大切な思いやりを持って協力してくれていることに感動した。小競り合いやら、自分の意思主張を通したいために世界中ではまさに戦争が一触即発のうちに起ころうとしている。他人の批判や足の引つ張り合いに神経を注ぐのではなく、感情のぶつかり合いを重視するのでもなく、「お互いを理解しあう気持ちの余裕」があつたら、真の幸せが見えてくるのにな。と私の小さな寺子屋の小さな小さなドラマを通して改めて 世界の平和のあり方を考えたことだった。

画柳会代表横浜市 中田恭子